

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

第19号

日本の福音化のために

民福協理事・東京ブロック長
新宿福音教会牧師

菅野 直基
Kanno Naoki

一、今あるものを否定しないこと

二〇一〇年二月十八日～二十一日まで、皇居勤労奉仕という名目で皇居に行つてとりなしの祈りをしました。同時に、赤坂御用地と国会議事堂でも日本のリバイバルを夢見て祈ってきました。四日間には祈りにだけ集中しました。神さまの日本に対するものすこい愛を感じました。読者の中には、天皇制に対して右から左まで色々な立場の方がいらつしやると思います。私は天皇制に対して、日本の文化であつて善悪ではないと信じています。バベルの塔以来、諸言語で分かれて文明文化が発達して来ましたが、そこにあるのは違いであつて、善悪や優劣ではないはず

です。

作り話だと思ひますがこんな話を聞いたことがあります。豪華客船タイタニック号が沈む時に乗客に海に飛び込んでもらいたいのので船長がある知恵を使つたそうです。アメリカ人には「飛び込んだら英雄になれるですよ」と言いました。そうしたらアメリカ人は海に飛び

込んだそうです。イギリス人には「飛び込む人は紳士ですよ」と言つたら海に飛び込んだそうです。ドイツ人には「飛び込むことが規則になつています」と言つたら海に飛び込みました。イタリヤ人には「飛び込んだらモテますよ」と言つたら海に飛び込んだそうです。フランス人には「飛び込むな！」と言つたら飛び込んだそうです。そして想像が付くと思いますが、日本人には、「みんな飛び込んでますよ」と言つたら海に飛び込んだそうです。これはそれぞれの文化の違いをよく現している話だと思います。

ある人は、「日本は個が確立していないし、自分の意見を持つていないからダメ」と日本人ダメ論を語つたり、反対に「日本はすばらしい」と日本人選民思想のようなことを語りますが、日本人には日本の文化が最高なのは言うまでもありません。しかし、それは他の文化と比べてではありません。日本は共同体中心の文化ですから、「みんなが飛び込んでいます」と言つて飛び込む人は、輪を乱さ

ない団結心のある人です。使徒パウロは、「福音のために、私はユダヤ人にはユダヤ人のように、ギリシヤ人にはギリシヤ人のようになりました」と言いました。私たちは、福音のために日本を愛し、日本人になることが大切なのではないでしょうか。

今日日本にあるもの、文化等を否定するのではなく、キリストの十字架の愛であるがまま受け止めるのです。そして、その中で福音を語つたら人々は必ず興味を示すはず。もちろん、偶像崇拜や不品行のように聖書が明確に罪と語ることが避けなければなりません。しかし、神さまを知らない人々は、偶像崇拜という概念すらありません。良いことをしていると思っているはず。また、婚前交渉も、人に迷惑をかけていないし、悪いことと言う意識もない場合があります。いきなり罪を指摘し、断罪するのではなく、神さまの愛を知つてもらふことが先のはずです。神さまを知ること罪がわかり、自ら悔い改めが生じます。その前に、「罪です」「ダメです」「悔い改

めなさい」と言ってしまったら、多くの人はそこで心を閉じてしまいがちです。そして、否定してから、「イエス・キリストを信じなさい」では、もう聞く耳もないかも知れません。もちろん、一概には言えませんが、逆の立場で考えたら、自分が大切にしているものをいきなり全否定されて、「キリスト」と言われても素直になりにくいだろうと思います。

反対に、注意しなければならぬということもあります。皇居の中で、賢所と宮中三殿の前で私は拝礼を要求されました。「和を乱さないために頭をちよつと下げるくらいいいだろう」と考えてはいけなと思います。もちろん私は直立不動でいました。これは、いくら文化だと言われても偶像崇拜なので拒絶せざるを得ませんが、とても勇気のいることです。ところで、私は消防団に入っていますが、何度も拝礼を要求されることがありましたが、祈って知恵と力を頂いて勝利できました。神さまから知恵と力を頂けば、仏教式のお葬式もお焼香を避けることで参列しても何ら問題ないと思いますし、お祭りも神社仏閣でお参りをしなければ問題はありません。むしろ、そのような場でこそ、毅然とした態度の中に愛を持って人々に接してこそ伝道のチャンスになるのではないでしようか。

二、祈ること

二つ目に大切なのは、文化があるがままで受け容れ、祈ることです。私たちが神さまならば自分の力で日本を変えられますが、私たちは祈りによって神さまに働いて頂きます。もちろん、主は神さまで私たちは従ですから、神さまの御心を求め、その御心を祈っていきます。日本のリバイバル、福音化は神さまの御心ですから、助け主聖霊に満たされ、毎朝早く起きて早天で祈り、時には夜を徹して徹夜で祈ったり、断食をして祈り、時間を決めて祈り、一日二四時間絶えず祈って行きたいものです。祈りの中には、悔い改めの祈りがあります。祈りの中で日本の国家の罪が示されたらその罪を自分のこととして悔い改めましょう。また、日本の救いを、自分と切り離してではなく、私たちの国を救ってください、と祈っていきましょう。さらには感謝と賛美の祈りをささげましょう。全てのことは祈りによって行うことが鍵です。第一にも祈り、第二にも祈り、第三、第四、第五にも祈りです。祈りによってはじめ、祈りながら行い、祈りによって完成して行きます。日本のリバイバル、福音化、トランスフォーメーションは祈りによって前進していくと信じます。

三、考え方を変えること

考え方を変えることが大切です。日本のリバイバルは「くだから難しい」という考え方を捨てましょう。むしろ、「ピンチがチャンスになる」と発想を転換させるのです。二〇〇九年は、政権交代が起こり政治の世界が変わりました。今年、そして二〇一〇年以降には、社会の大変革が起こって行くことを期待します。

私は、前述の通り皇居の中に入って祈れる特権にあずからせて頂きました。キリスト教の宣教師の中でも初めてか、極めて珍しいことではないかと思えます。皇居の中で四日間集中して祈ることが出来たのはリバイバルの幕開けだと信じます。もちろん、そこで天皇皇后両陛下、皇太子殿下とも会うことが出来ました。私は、皇族に対する尊敬の念も増しましたが、同時に、天皇皇后両陛下、皇太子殿下、皇太子妃殿下をはじめ、皇族の救いを切実に祈る必要を感じました。そして、神さまはその祈りに答えてくださり、近い将来、皇族は救われ、日本に国家的なりバイバルが訪れると信じます。

日本のリバイバルは決して難しいのではなく必ず起こります。そう信じます。不況の中でピンチをチャンスに変える企業は成長している

はずです。ニーズを知り、ニーズを満たしているからです。政治の世界で、民主党はピンチをチャンスに変えたので政権交代をさせることが出来ました。国民が自民党に失望したこともあるかも知れませんが、やはり、国民のニーズを知り、ニーズをマニフェストにしたからです。今日日本はあらゆる領域で大ピンチです。自殺者が毎年三万人を超えています。毎日百人近くの自殺者がいるのです。異常なことです。経済的にも、道徳的にも、あらゆる領域でピンチです。このピンチをチャンスに変えられるのはキリスト教しかないと思っています。今がチャンスです。私たちは考え方を変えて、日本のリバイバルに備えなければなりません。日本人のニーズを知ったら、福音の中にすべてのニーズが入っています。しかし、この日本の文化を否定していたのではニーズを知ることが出来ないです。ニーズを満たす前に人々は傷つき心を閉ざしてしまいます。人々は本物の愛を求めています。キリストの十字架の愛で日本を抱きしめ、日本のために日夜涙を流して祈っていきましょう。そして、日本は救われる、日本にリバイバルは起こる、日本の福音化は可能であることを信じてリバイバルの準備をしていきましょう。

